



## 2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月13日

上場会社名 丸全昭和運輸株式会社 上場取引所 東  
コード番号 9068 URL <https://www.maruzenshowa.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡田 廣次  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 本田 和之 TEL 045-671-5923  
四半期報告書提出予定日 2024年2月14日 配当支払開始予定日 ー  
四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	105,105	△1.5	10,019	3.8	10,841	2.8	8,188	18.4
2023年3月期第3四半期	106,665	5.3	9,651	10.2	10,548	12.6	6,916	12.5

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 10,832百万円 (36.0%) 2023年3月期第3四半期 7,962百万円 (25.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	403.66	—
2023年3月期第3四半期	341.00	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	183,301	124,568	66.9	6,043.17
2023年3月期	177,443	116,085	64.3	5,628.39

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 122,603百万円 2023年3月期 114,164百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	47.50	—	52.50	100.00
2024年3月期	—	60.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	70.00	130.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

### 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	145,000	2.9	14,000	10.3	15,000	8.8	10,700	19.8	527.45

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	20,618,244株	2023年3月期	20,612,844株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	330,282株	2023年3月期	329,162株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	20,286,141株	2023年3月期3Q	20,282,192株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策であった様々な規制が緩和され、個人消費の増加や、インバウンドの需要拡大による、社会・経済活動の正常化が進み、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかし、長期化する様相のウクライナ情勢に加えて、緊迫化する中東情勢など、世界的に不安定な状況が継続し、これらを背景とする資源価格の高騰や円安基調が続くなど、依然として先行き不透明な状況が続きま

した。  
物流業界におきましては、国際貨物の輸送量は、機械類、自動車部品関連が荷動きを増やし、全体的な輸送量を押し上げましたが、記録的な干ばつによるパナマ運河の喫水制限によって、今後の世界的な物流への影響が懸念されます。また、国内貨物の輸送量については、原材料や燃料価格高騰の影響は受けたものの、生産関連貨物や建設関連貨物は堅調に推移しましたが、個人消費が伸び悩み、消費関連貨物の低迷を受け、総輸送量は減少となる見込みです。

更に、長年に亘って問題となっている少子高齢化によるドライバー不足や同業者間の価格競争などの問題に加えて、間近に迫った2024年問題への対応、そしてトラックの燃料価格も、原油価格が上昇した影響により、高止まりで推移しました。

このような状況のもと、当社グループでは、2022年度を初年度とする3か年にわたる第8次中期経営計画の2年目を迎えました。本計画2年目の取り組みとしては、3PL事業の拡大とともに「成長ターゲット」では農業関連分野の売上拡大、「事業競争力の強化」では、当社独自のLLPサービス(MALoS)の1つとして、CO2排出量可視化サービスの提供や新たな業界別プラットフォームの構築、「企業基盤の強化」では、DXの推進や研修プログラムの見直しによる人材の育成、ESGデータやTCFDなど非財務情報に関する開示への取り組み等、各施策を実行し、当社グループ全役員・社員が一丸となり、目標売上・利益の達成に努めてまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は105,105百万円(前年同期比1.5%減)、営業利益は10,019百万円(前年同期比3.8%増)、経常利益は10,841百万円(前年同期比2.8%増)、そして親会社株主に帰属する四半期純利益は8,188百万円(前年同期比18.4%増)となりました。

セグメント別の状況につきましては、次のとおりであります。

#### <物流事業>

貨物自動車運送事業については、関東地区では、非鉄金属や半導体機器の取扱い減少がありました。住宅資材や建設機械などの取扱い増加がありました。中部地区では、ステンレス製品の取扱い減少がありました。関西地区では、産業用機器の取扱い減少がありました。さらに、モーター関連製品の取扱い減少がありました。貨物自動車運送事業全体では、若干の増収となりました。

港湾運送事業については、関東地区では、車両や発電用原料の取扱い増加がありました。建設機械や非鉄金属、穀物の取扱い減少がありました。中部地区では、自動車部品の取扱い減少があり、港湾運送事業全体では、減収となりました。

倉庫業については、関東地区では、合成樹脂や住宅資材の取扱い減少がありました。化成品や食品の取扱い増加がありました。中部地区では、住宅設備機器の取扱い増加がありました。関西地区では、日用雑貨や油脂の取扱い増加があり、倉庫業全体では、増収となりました。

鉄道利用運送事業については、住宅資材の取扱い増加があり、増収となりました。

物流附帯事業については、外航船収入では、化成品や電極関連品の取扱い減少があり、大幅な減収となりました。内航船収入では、穀物などの取扱い減少があり、減収となりました。航空収入では、化成品の取扱い減少があり、減収となりました。物流附帯事業全体では、大幅な減収となりました。

その結果、物流事業の売上高は前年同期比1.8%減収の91,183百万円、セグメント利益(営業利益)は前年同期比4.3%増益の8,554百万円となりました。

#### <構内作業及び機械荷役事業>

構内作業については、ステンレス製品の取扱い減少がありました。工業塩の取扱い増加があり、構内作業及び機械荷役事業全体では、増収となりました。

その結果、構内作業及び機械荷役事業の売上高は前年同期比1.7%増収の12,178百万円、セグメント利益(営業利益)は前年同期比1.8%増益の1,062百万円となりました。

#### <その他事業>

工事収入については、国内の設備移設案件や機械据付案件の取扱い減少があり、減収となりました。その他事業全体では、減収となりました。

その結果、その他事業の売上高は前年同期比4.5%減収の1,742百万円、セグメント利益(営業利益)は前年同期比1.1%減益の402百万円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期の総資産は、183,301百万円となり、前期末に比べ5,858百万円増加しました。

このうち、流動資産は70,067百万円となり、前期末に比べ1,680百万円増加しました。主な要因は、受取手形、営業未収金及び契約資産が1,912百万円増加したことによるものです。また、固定資産は113,234百万円となり、前期末に比べ4,177百万円増加しました。その主な要因は、投資有価証券が3,222百万円、建物及び構築物が1,341百万円増加したことによるものです。

流動負債は36,287百万円となり、前期末に比べ615百万円減少しました。主な要因は、短期借入金が425百万円増加し、未払法人税等が1,138百万円減少したことによるものです。また、固定負債は22,445百万円となり、前期末に比べ2,009百万円減少しました。主な要因は、繰延税金負債が1,042百万円増加し、長期借入金が3,201百万円減少したことによるものです。

純資産は124,568百万円となり、前期末に比べ8,483百万円増加しました。主な要因は、利益剰余金が5,870百万円、その他有価証券評価差額金が2,118百万円増加したことによるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後のわが国経済は、他の先進各国と比較すると、新型コロナウイルス感染症からの経済回復が遅れているものの、省力化、効率化などの設備投資やインバウンド消費の堅調もあり、景気は緩やかに回復すると思われれます。しかし、今後、緊迫する中東情勢に加えて、円安や資源高などの影響を受けて物価が高騰し、国内において高インフレが長期化するようなことになれば、今後の経済活動の正常化にも影響が出る恐れもあり、しばらくは、先行き不透明な状況が継続するものとみられます。

このような経営環境のなか、創立90周年を記念して作られた新しいブランドスローガン「物流は、愛だ。」のもと、当社グループ全役員、社員が一丸となって、お客様の満足度で世界一を目指し、物流に変革を起こし続けて、お客様のご期待にお応えすべく、決意も新たに鋭意努力し、目標売上・利益の達成に努めてまいります。

2024年3月期通期の業績予想につきましては、現時点では2023年11月8日に公表いたしました業績予想に変更はありませんが、市場環境の変化等により、業績予想の修正を行う必要が生じた場合には速やかに公表いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	15,337	15,755
受取手形、営業未収金及び契約資産	28,144	30,056
有価証券	18,199	17,199
貯蔵品	315	347
前払費用	747	960
その他	5,651	5,756
貸倒引当金	△9	△10
流動資産合計	68,386	70,067
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	35,943	37,285
機械及び装置(純額)	8,384	7,809
船舶(純額)	0	0
車両(純額)	952	935
工具、器具及び備品(純額)	289	249
リース資産(純額)	2,139	2,296
土地	30,032	30,034
建設仮勘定	1,230	544
有形固定資産合計	78,973	79,155
無形固定資産		
のれん	734	301
その他	1,219	2,359
無形固定資産合計	1,953	2,661
投資その他の資産		
投資有価証券	20,273	23,495
長期貸付金	142	141
繰延税金資産	766	682
退職給付に係る資産	350	449
その他	6,613	6,665
貸倒引当金	△16	△16
投資その他の資産合計	28,129	31,417
固定資産合計	109,056	113,234
資産合計	177,443	183,301

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	12,835	12,898
短期借入金	15,260	15,686
未払金	1,052	931
未払法人税等	2,520	1,381
未払消費税等	656	1,012
未払費用	2,016	2,239
賞与引当金	1,786	888
契約負債	87	42
役員賞与引当金	5	2
その他	681	1,204
流動負債合計	36,903	36,287
固定負債		
長期借入金	16,269	13,067
繰延税金負債	4,681	5,723
役員退職慰労引当金	80	63
退職給付に係る負債	405	416
資産除去債務	862	899
その他	2,155	2,273
固定負債合計	24,454	22,445
負債合計	61,358	58,732
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,117	10,127
資本剰余金	9,949	9,960
利益剰余金	87,457	93,327
自己株式	△600	△604
株主資本合計	106,924	112,811
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,854	8,973
為替換算調整勘定	539	978
退職給付に係る調整累計額	△154	△159
その他の包括利益累計額合計	7,239	9,791
非支配株主持分	1,920	1,964
純資産合計	116,085	124,568
負債純資産合計	177,443	183,301

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
営業収益	106,665	105,105
営業原価	93,087	91,133
営業総利益	13,577	13,971
販売費及び一般管理費	3,926	3,951
営業利益	9,651	10,019
営業外収益		
受取利息	9	10
受取配当金	789	790
持分法による投資利益	31	37
雑収入	237	146
営業外収益合計	1,067	984
営業外費用		
支払利息	147	145
雑支出	22	16
営業外費用合計	170	162
経常利益	10,548	10,841
特別利益		
固定資産売却益	49	97
投資有価証券売却益	16	1,242
補助金収入	57	190
受取保険金	2	50
特別利益合計	124	1,580
特別損失		
固定資産除売却損	211	18
固定資産圧縮損	56	173
損害賠償金	—	56
特別損失合計	268	248
税金等調整前四半期純利益	10,405	12,173
法人税、住民税及び事業税	3,236	3,691
法人税等調整額	161	210
法人税等合計	3,398	3,901
四半期純利益	7,007	8,272
非支配株主に帰属する四半期純利益	91	83
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,916	8,188



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	7,007	8,272
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	203	2,086
為替換算調整勘定	723	438
退職給付に係る調整額	△12	△5
持分法適用会社に対する持分相当額	40	40
その他の包括利益合計	954	2,559
四半期包括利益	7,962	10,832
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,869	10,740
非支配株主に係る四半期包括利益	93	91

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注3)
	物流事業	構内作業及び 機械荷役事業	計				
売上高							
一定の期間にわたり移転 される財又はサービス	92,867	11,973	104,840	1,825	106,665	—	106,665
顧客との契約から生じる 収益	92,867	11,973	104,840	1,801	106,642	—	106,642
その他の収益	—	—	—	23	23	—	23
外部顧客への売上高	92,867	11,973	104,840	1,825	106,665	—	106,665
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	410	410	△410	—
計	92,867	11,973	104,840	2,235	107,076	△410	106,665
セグメント利益	8,201	1,043	9,244	407	9,651	—	9,651

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設業、警備業、産業廃棄物処理業、不動産業、保険代理業、自動車整備業等のサービスを実施しております。

2. 調整額△410百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日 至2023年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注3)
	物流事業	構内作業及び 機械荷役事業	計				
売上高							
一定の期間にわたり移転 される財又はサービス	91,183	12,178	103,362	1,742	105,105	—	105,105
顧客との契約から生じる 収益	91,183	12,178	103,362	1,718	105,081	—	105,081
その他の収益	—	—	—	24	24	—	24
外部顧客への売上高	91,183	12,178	103,362	1,742	105,105	—	105,105
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	414	414	△414	—
計	91,183	12,178	103,362	2,156	105,519	△414	105,105
セグメント利益	8,554	1,062	9,616	402	10,019	—	10,019

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設業、警備業、産業廃棄物処理業、不動産業、保険代理業、自動車整備業等のサービスを実施しております。

2. 調整額△414百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。